

稲作だより

第 3 号
育苗後期 &
本田準備編

令和3年4月22日発行
山形おいしさ際立つ！米づくりプロジェクト
最上地域本部
最上総合支庁農業技術普及課
Tel 29-1329（稲作担当）

1 日の気温の変化が大きいため、

朝晩は涼しい日でも、日中の高温によるヤケに要注意！

日中の高温時 ⇒ 【対応策】遮光資材の適切な活用や換気

朝晩等の低温時 ⇒ 【対応策】保温資材の適正使用

最上地域の播種作業は平年よりやや早く進んでいます。
気温や日照の変化が大きいため、**急に日射しが強くなった時は**、遮光資材の活用や換気による温度管理を徹底しましょう。なお、**遮光資材は緑化期までの使用**とし、緑化期以降は換気による温度管理を心がけましょう。

<育苗管理 ～育苗後期編～> ※初期管理は前号を参照

葉令の数え方

(下図は 2.4 葉)

○ 温度管理 ～ハウスの温度はこまめに確認を～

ハウスの開閉や被覆資材を活用して温度管理を行いましょ。

緑化期以降の育苗適温

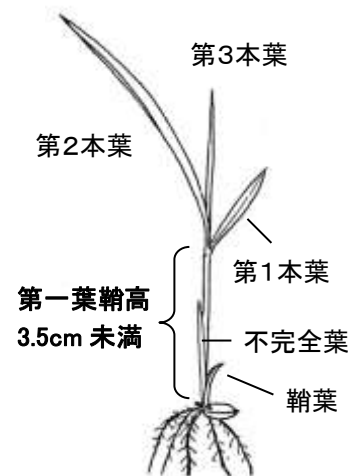
昼間: 20～25℃

夜間: 8℃以上

※温度は育苗箱に近い位置で測定する。

☆徒長防止のため、**苗の過保護は厳禁!**

田植えの約 1 週間前からは、霜の心配がない限り夜間もハウスを開放し、苗を外気に慣らすようにしましょ。



○ 水管理 ～灌水は午前中に 1 回が基本～

十分な水量を午前中に 1 回が灌水の基本です。低温時や夕方の灌水は、床土の温度を低下させるだけでなく、過湿・カビの原因になるため避けましょ。

○ 追肥 ～苗の生育(葉令)を確認し適期に追肥を～

1 回の追肥は 1 箱当たり窒素成分で 1g を目安に行いましょ。

苗種	追肥時期
稚苗 (25日間 2.2～2.5葉)	1.8葉期
中苗 (35日間 3.2～3.5葉)	1回目: 2.0葉期 2回目: 3.0葉期

※床土に緩効性肥料(育苗一発肥料など)を使用した場合は、追肥の必要はありません。

作柄の安定化に向けて、今一度基本技術を確認しよう!!

<本田準備～土づくり・基肥～>

◎ 積極的な土づくり ～気象変動に強い米づくり～

ようりん、ケイカル等の土づくり肥料は、水稻の生育に必要な養分の供給源となります。また、堆肥等の有機物は、土壌の通気性や透水性を改善し養分供給力を高めます。

日照不足や長期間の降雨、高温など、近年「異常気象」と言われる年が続いています。

積極的に土づくりを行い、気象変動に強い米づくりを目指しましょう。

<土づくり肥料の投入量目安と施用効果>

ようりん	30 kg/10a	初期分けつの発生促進、根の伸長や登熟向上に効果大
ケイカル	120 kg/10a	茎葉を硬くし、病害虫に強く、登熟・食味向上に効果大

<各種堆肥の特徴> 過剰な施用にならないように注意！

牛ふん堆肥	繊維質に富み、土壌中での分解も遅いため土壌改良効果が高い。
豚ふん堆肥	肥効は牛ふん堆肥より即効的であり、過剰施用にならないよう注意が必要である。
鶏ふん	窒素、リン酸、カリの成分が高く、肥料的効果が高い。

◎ 基肥施用 ～品種と地力に合わせた適正施用を～

下表の品種別基肥量を目安に、地力に応じた基肥としましょう。

初期生育を確保するためには、側条施肥や耕起後の施肥が有効です。

<品種別の基肥量目安>

(単位：窒素成分 kg/10a)

	はえぬき	あきたこまち	ひとめぼれ	コシヒカリ	つや姫	雪若丸	ヒメノモチ
全層施肥	6	5	4	3	4	4～5	5

※ 地力が高い圃場や堆肥を施用した圃場では地力や堆肥施用量に応じて減肥する。

※ 側条施肥は肥料の利用効率が高いため、上記から2～3割減らした量を目安とする。

◎ 畦畔補修 ～水管理の効率化と除草剤の効果的使用～

漏水があると、適切な水管理や除草剤の効果的な使用が困難になります。畦塗りや畦畔シート等により、畦畔からの漏水を防止しましょう。

農作業安全 <農作業事故を防止しましょう！>

トラクターの転落・転倒に注意し、点検整備は必ずエンジンを止めてから行いましょう。あせりは禁物です。作業は計画的にゆとりを持って行いましょう！

「山形県農作業事故防止啓発運動～春季運動強化期間(4月10日～6月10日)」